

●協働学習 ■同時進行型

実践タイトル 給食風景を見せて児童参加型食育講話

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

・画面の画像を通して、視覚的な工夫で興味と関心を持たせる。

PC教材(自作)

・電子黒板を用いて児童に操作活動させることで、みんなが考えることができる。

参考にしてほしいポイント

- ・職員共有のフォルダに画像をストックし、教材に加工するための材料を常に用意しておく。
- ・児童をボード操作に参加させ、全体の場での発表力や自信につなげる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	・電子黒板に食事のマナーについての3つの視点を提示し、学習内容を知る。 ・「食器の並べ方」編であることをおさえ、給食時の画像から様子を観察する。	・自作教材「食器のならべ方」(プレゼンテーションソフトウェア)(写真1)
展開 5 10	・画像より、食器や牛乳の位置が個々に違うことから、正しい置き方について考える。 ・食器の置く位置には、そのわけ(日本食の知恵)があることを知る。 ・牛乳の位置(右利きの人は右向き)については、これまでの空いているところに置くという認識から、理にかなった日本食の作法や礼儀からきていることを知る。	・主食から順に電子黒板を使って、児童の考えを引き出す(写真2)。
まとめ 10 15	・食器の置き方一つでも、「食べやすさ」「健康に配慮した一汁三菜」「きれいな配置」など日本文化の知恵がある。 ・実践を通して、自分に合った食器の置き方を見つけることができるようにする(自己決定)。	・電子黒板(写真3)

(朝の会での実践)



写真1: 給食時の画像から食器の位置について関心を持つ



写真2: 食器の位置が個々に違うことに気づき、児童の考えを引き出す



写真3: 食器の位置について学んだことを意識付ける

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・日頃の給食では、食器の位置が個々に違っている画像を見せることで学習内容が明確になった。
- ・主食、汁物、主菜、副菜、牛乳の位置を児童の操作活動で確認することができたので、正しい食器の位置についてよく分かった。

活用効果

評価の観点	・集団活動や生活への関心・意欲・態度	具体的容容	・導入時に用いた知らぬまに撮られていた給食時の画像から、興味を持って話を聞く態勢ができ、前に出て画面をタッチする操作により、一層集中して学習できた。
-------	--------------------	-------	--

実践の手応え

- ・画像を提示しながら発問・指示・説明をしていくので、指導の手順や内容がぶれない。また、児童の反応できるゆとりもあった。電子黒板を共有して、考えたり発表したりすることで学び合いができた。